

1 指導計画・指導案の作成

(1) 年間指導計画・週指導計画の作成

指導計画の意義と役割

学校における教育活動は、常に目的、目標を明確にし、計画的、組織的に進めることが求められる。各学校では、学習指導要領に基づいて教育目標を設定する。この目標を実現するため、教育の内容を学年段階に応じ授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画として編成されたものが教育課程である。指導計画は、このような教育課程をより具体化したものであり、指導方法や使用教材、評価の計画も含めて、学校ごとに創意工夫して作成される。

各学校において指導計画を作成するに当たっては、各教科等の目標と指導内容の関連を十分研究し、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、まとめ方などを工夫したり、内容の重要度や児童生徒の学習の実態に応じてその取扱いに軽重を加えたりして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導を行うことができるように配慮することが必要である。

また、各学級等において、日々の教育活動を進める際には、自校の指導計画に示された、各教科・領域等の目標や具体的な指導内容、指導時数等を理解し、適切な指導を行わなければならない。

指導計画の内容と種類

指導計画は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間及び特別活動のそれぞれについて、学年ごとあるいは学級ごとなどに作成される。

指導計画には、実際の指導を進めるに当たって必要な指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当、評価計画等が含まれる。指導計画には、年間指導計画や2年間にわたる長期の指導計画から、学期ごと、月ごと、週ごと、単位時間ごと、あるいは単元、題材、主題ごとの学習指導案に至るまで各種のものがある。

日々の指導や授業の計画・実施に当たっては、学校において作成された年間指導計画等を適宜参照し、そこに示された目標や指導内容に従って進める。

また、学級担任、教科担当等として、週指導計画や学習指導案等、必要な指導計画を作成して計画的に指導を進める。

年間指導計画

年間指導計画は、学校の教育課程・教育全体計画に基づいて、各教科・領域等ごとに、1年間（若しくは2年間）の長期計画として作成される。学期や月ごとの指導計画や週指導計画は、年間指導計画に基づいて作成される。

年間指導計画には、目標、内容、順序、時期、時数等が含まれることが一般的である。ただし、指導計画は、各学校が自校の教育目標や児童生徒の実態や課題に即して、創意工夫して作成するものであるため、特に決められた

内容項目や様式等はない。指導に際しては、自校の年間指導計画の構成や内容をよく理解、把握しておくようにする。

週指導計画の意義と役割

週指導計画（週指導案・週案）は、年間指導計画で計画された内容を児童生徒の実態や他の教科との関連、各種行事との関連などを考慮し、実際の時間割に即して計画、配当するものである。週指導計画によって適切に計画、配当することで、予定していた時数の超過や余剰を防ぐことができる。また、学年や学校全体の活動計画と連携・調整を図ることで、日々の学習指導や生徒指導等を効率的に進めることができる。週指導計画は、年間指導計画と日々の指導、本時の学習指導とを結び付けるものであり、学級担任、教科担当等として、毎週作成・活用する。

週指導計画の主な内容

週指導計画は、各学校において様式や内容項目を調整し、作成するものである。一般的には、時間割表の形式で、時間ごとに、教科名、単元（題材）名、教材名、本時の目標、主な内容、準備物、本時の時数（「○／○」等）、週や月ごとの累積授業時数等を記載する。

なお、毎時間のねらいを確実に達成するためには、児童生徒が目標を達成した際の姿を具体的に想定し、適切な指導が行われることが重要であることから、評価の観点や評価規準を記載する場合もある。

また、授業改善の視点から、実施後の反省や児童生徒の学習状況等をメモする場合もある。いずれの場合も、日々の指導の充実に必要な内容で構成された週指導計画を作成し、実際の指導に活用していくようにする。

週指導計画作成上の留意点と活用

週指導計画を作成する際には、以下のことに留意する。

- 年間指導計画等に従っていること。
- 学年、学校全体の行事等と調整を行った上で、無理のない計画を立てること。
- 作成に当たっては、学年の教員と相談したり、校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務主任（部長）の指導を受けたりするなど、連絡及び調整を十分行うこと。
- 児童生徒の実態等を記入する際には、個人情報の保護を十分に配慮すること。
- 実施時期に先立って時間的な余裕をもって作成すること。

1 指導計画・指導案の作成

(2) 学習指導案の作成

学習指導案の意義と役割

学習指導案を作成することは、どのような資質・能力を育成するために、児童生徒が、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という授業の内容や手順を具体的に考えていくことに他ならない。指導者は、学習指導案を作成することを通して、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練りあげていく。つまり、学習指導案は、その時間のねらい（育成を目指す資質・能力）を達成するための設計図であるといえる。

こうして作成された学習指導案は、実際の学習指導・授業を進めていく際の進行表として働く。指導者は、学習指導案を基に授業を行うことで、ねらいに即した学習指導を、計画的、効果的に進めていくことができる。

また、授業を終えた後、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点など様々な書き込みがされた学習指導案は、授業記録としての役割を果たす。児童生徒の様子や自分自身の指示や発問などの指導を振り返って成果や課題を明らかにする資料としても活用することができる。

内容と構成

学習指導案は、基本的には、授業の実施概要、単元（音楽、図画工作、家庭、美術、技術・家庭等においては「題材」）全体に関わる内容、本時の授業に関わる内容の3つで構成される。

【実施概要】

授業の実施概要としては、対象（学年・組・児童生徒数等）、実施日時、場所を明記する。

【単元（題材）全体に関わる内容】

単元（題材）全体に関わる内容としては、単元（題材）名・教材名、単元（題材）について、単元（題材）の目標、単元（題材）の評価規準、指導と評価の計画を記載する。単元（題材）とは、いくつかの教材や活動で構成された一連の学習内容のまとまりをいう。主たる教材は、教科用図書の使用を基本とする。

本時1時間の授業を構想するためには、まず、単元や題材の学習活動全体のねらいや内容、活動の流れを明確にすることが必要である。そのため、単元（題材）の目標や評価規準を児童生徒の実態や学習課題に即して具体的に設定し、学習活動の大まかな流れを指導と評価の計画として設定する。その際、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、というような観点で単元や題材の構成をデザインすることが重要である。

【本時の授業に関わる内容】

本時の授業に関わる内容は、本時の目標と、本時の展開である。本時1時間の詳細な指導計画として、主体的・対話的で深い学びの視点からの児童生徒の学習活動が具体的にイメージできるように、流れに沿って記述する。そ

の際、本時の目標（どのような資質・能力を育成するのか）と、学習活動（どのような学習活動を行うのか）と、評価（どのような学習状況であれば目標が達成できたとするのか）の3つが相互に関連し、それぞれのつながりが明確になっていることが重要である。

作成の手順と留意点 学習指導案は、次のような手順で作成する。

① 学習指導要領の確認

その学年でどのような内容を学習し、どのような資質・能力を育成するのか、指導の見通しをもつために学習指導要領を必ず確認する。

② 児童生徒の実態と課題の分析

育成を目指す資質・能力を視点にして、児童生徒の実態を把握、分析し課題を明らかにする。実態把握に当たっては、ノートや作品を見直したり学習評価のための補助簿を読み直したりするなど、具体的な資料に基づいて考察する。

③ 単元（題材）の目標・単元（題材）の評価規準の設定

学習指導要領に示された目標や内容、児童生徒の実態及び前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて、単元（題材）の目標を資質・能力の三つの柱に沿って設定する。単元や題材の中心となる学習活動を想定し、学習活動の最終段階で、児童生徒が学習を通して「何ができるようになるか」を具体的に思い浮かべることで、目標や評価規準に具体性と必然性をもたせることができる。

④ 指導と評価の計画

児童生徒の学習活動の流れを中心に据えて、指導と評価の計画を立てる。学習評価については、どの段階で児童生徒の何を捉えて評価するのか、評価規準と実際の学習活動に即した評価方法を計画する。観点別の学習状況の評価に用いる評価は、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、かつ適切に評価するための計画を立てることが重要である。

⑤ 本時の学習指導案

この時間に「どのような資質・能力を、どのような学習活動を通して育成するのか」という発想で、1時間の学習活動を組み立てる。さらに、児童生徒が学習活動に主体的に取り組めるようにするために、指導者がどのような手立てを取るべきかを考える。

⑥ 本時の評価計画

1時間の授業のどの場面で評価を行うのか、また、その評価資料をどのような方法で収集するのかを計画しておくことが重要である。そのためには、評価方法を実現可能な内容で設定することが大切となる。

「学習指導案ハンドブック」の活用

京都府総合教育センターでは、学習指導案を作成する際の手引きとして「学習指導案ハンドブック（令和3年3月）」を作成した。学習指導の在り方や実践的な指導力を身に付けるため、活用することが望ましい。

